

## 令和5年度 理科実践・研究計画

部 員	○佐藤 咲紀、柴田 省吾、井上 駿太
-----	--------------------

研究テーマ  
**様々な自然の事物・現象に対する疑問を科学的な手法を用いて問題解決し、理科と日常生活のつながりを意識する子どもを育む学び**

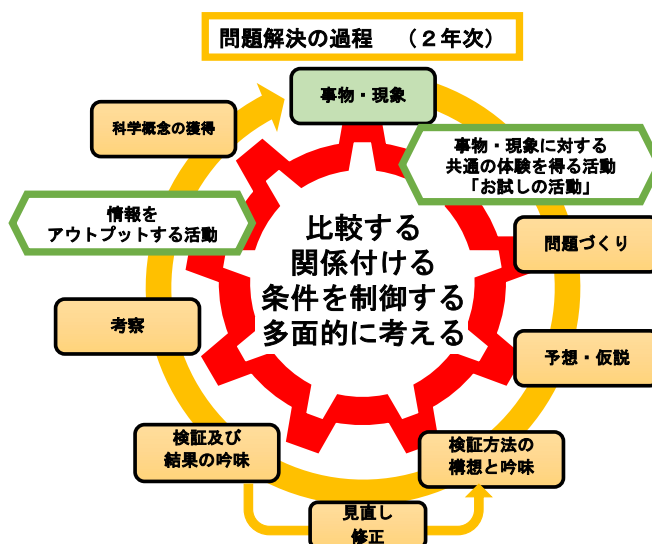
### 1 研究テーマについて

昨年度まで子どもたちは、提示された事物・現象を通して疑問を見いだしたり、実験方法を考えたりし、見通しをもって学習を進めることができるようになってきた。しかし、生活経験や既習内容を基に疑問を見いだしたり、実験結果から言えることを表現・伝達したりするという点では課題が残った。

こうした現状を踏まえ、前年度に引き続き、「様々な自然の事物・現象に対する疑問を科学的な手法を用いて問題解決し、理科と日常生活のつながりを意識する子どもを育む学び」の研究テーマの下、今年度は次の2つの視点で実践を積み重ねていく。

1つ目は、疑問を見いだすことができるように、日常生活と関連のある共通の体験を得る活動を設けることである。事物・現象に対する共通の体験を得るために、「お試しの活動」を設定する。このことにより、共通の体験を基にして、事物・現象から全員で解決していきたい問題を見いだすことができる。また、生活経験の乏しい子どもも予想や見通しをもつことが比較的簡単になり、日常生活から学習問題へと学びの価値を見いだすことにつながる。

2つ目は、自分の考えを表現・伝達することができるように、協働的に学び合う場を設けることである。問題解決の過程で理科の学びと日常生活のつながりを意識しながら情報をアウトプットする機会を増やすことで、理科での学びと日常生活との往還がなされ、実生活で役立つ知識となり蓄積されていく。



図：理科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

理科で目指す自律した子どもの姿

- ・様々な自然の事物・現象に自らの疑問を見だし、その疑問を解決しようとする姿
- ・「比較する」、「関係付ける」、「条件を制御する」、「多面的に考える」活動を通して、自然の事物・現象と日常生活のつながりを意識してアウトプットする姿

### 2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

理科と日常生活のつながりを意識する学びのものさしを子どもと更新するための手立て

- 導入の場面で、取り扱う事物・現象に対する共通の体験を得ることができるようなお試しの活動を行う。
  - ・雨の日に外に出て水たまりができやすいところを観察したり、じょうろを用いて実際に水を流したりする活動（4年 雨水のゆくえと地面のようす）
  - ・砂糖や小麦粉などを水に入れた時の様子を観察する活動（5年 物のとけ方）
- 気付いたことや考えたことをアウトプットし、協働的に学び合う場を設定する。
  - ・思考ツールやICT機器、アプリの活用